

らんまの過去録



片耳豚
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

クソ親父が金を持つてくるまで
俺は借金のカタとして
負債を肩代わりしたという
金持ちのおっさんに
返済できるまでの間
あずけられる事になった

はつきり言つて
このおっさん相当胡散臭い

こつちの事情にも詳しく
どうにも俺の体質を知つて
親父に金を貸す気になつたらしい

ふるん

金が返し終わるまで
俺は基本的にこのおっさんの
所有物という扱いになるらしい

見張りが何人もいて屋敷からは
出してもらえなそーだが
それ以外は比較的自由
ただし……条件として
いつも女の体のままでいることときた

今ひとつ何を考えてんだか
よく分からんおっさんだが……

まあ……要するに
そういうコトが目当て
なんだろうな――

ゴッ

案の定というかなんというか
おっさんから俺に出た条件は
だいたい予想していた通りの
モンだった

一つは、おっさんに呼ばれた時は
必ず寝室にやってくるよ

もう一つは、
寝室では自分の命令に
抵抗しないこと

つて——なんだよ！
何かと思ったら
単なるエロオヤジじゃねえか！

ハイハイ、大人しくしてればいいんだろ
この部屋じゃ命令は絶対だからなう！
畜生っ……こりゃあ早いところ
隙を見て逃げ出さねえと

ギンツ

くっそ……このおっさん
俺が元は男だつてこと
知つてんだらうがつ!
変態か?!

変な触り方しやがつて……
最近胸がでかくなつたから
服がちよい小せえんだよな

そう言つてやつたらニヤけながら
「どうぞ自由になつきやがつた
ム方つくおっさんだぜ……」

服をはだけられた時はなんか一言
言つてやろうかと思つたが
なにが——「約束を破るなら
親父さんの安全は保証しかねる」だつ!

「ああそうかよ! だつたら
こつからは声も出さねえよつ!」

—やばい、なんだこれ？
ちよつとまで普通じゃねえ
俺のカラダどうなってるんだ？

時間が経つにつれて
触れられたトコロが……
声が……抑えらんねえ——っ

やめろバカ？！
そんな……胸はっかり——

うわあああ——
声……声、出ちまうっ
乳首ひねられるとお

やめ——やめろっ
チクシヨオ何でだろ！

随分長い時間この部屋にいるから
そろそろ効いてきたか
——だど？

まさか、この変な香り——
香りに何か
うわああ！くそっ！
頭がぼんやりして考えが
まとまんねえ——

それから俺は
全く抵抗出来ないまま
おっさんに、いいように触られ続けた

声なんてとつとつに
抑えられなくなつて
女みたいな変な声を
何度も上げさせられた

胸なんかは満遍なく
もう舌が這つてない場所なんて
残つてないくらいに舐めまわされて
乳首をさんさんいじられまくつた

胸と一緒に股間を弄られるのが
一番効いた——めまいが痺れに変わる
「それは君がイキそうなんだ」
おっさんの声で
さらに痺れが強くなる——

日付が変わつて解放されるまで
俺は「イキそう」な状態のまま
ドロドロにされた

「また明日」——つて
マジかよお……

俺が屋敷に来てから
——一週間がたった

まだ俺はこの屋敷にいる

初日から、毎日俺は
毎晩寝室に呼び出されて
「イキそう」な状態にされたまま
開放されるのを繰り返している
なんだかもどかしくて
頭が変になりそうで怖い



今日もまた
「イキそう」にされた
最近はその香がなくなっても
俺は反応するようになった

「そろそろ、いいか」
おっさんがそう言って俺に近づくと
今日は終わりじゃないのか？
何が、そろそろなんだ？

もう、少し触られるだけで
変な声が出るようになってしまってる
まずいのに……昼間もぼおつとして
逃げ出そうにも体がうまく動かない

どうにかしなきゃヤバいのにな
何にも思いつかねえ……
これ以上、何されんだよお



屋敷に来てから十日目

結局俺は、あれからケツ穴で女になってから初めて「イカされ」てしまった

どうやらおっさんは今日から本格的に俺のケツ穴を……調教？いや——開発だったか？とにかくそんなことをするらしい

あの感覚は……ヤバイ
あの日から俺はひたすらケツ穴だけで「イカされ」てもう相当おかしくされている

腹側の奥の弱いところが完全に
おっさんにバレちゃったから
正直もう「イカされ」ることに
まったく抵抗できない

このおっさんは相当なちっさいし
救いようのねえ変態だが——
多分その……かなりウマイ

女を追い詰め慣れているのか
とにかく周到に仕込んでくる
息を吹きかけるのがいつもの合図
おっさんが本気になった時の合図だ

それを体が憶えたのか
それだけで力が抜ける
まずい——大丈夫か、俺？

「今日も君のケツ穴は美しい——じゃねえよ！
嬉しくねえよ——このおっさんバカだろっ！」

無理だあ！こんな……のお
耐えられるとかそんな話じゃ
!?

グアアア

あつひいいいあつ！なん？
なんだ今のお……どうやってそんな
ひいああ……まっ……てえ
ちよつとまっ

なんだよこれなんなんだよお！
引つ掛けながら……
えぐつてえ——震えて——！?

あああああつ！ム……りつ！
これ無理——とめ——やつ……
かきまわすのむりいいい——

灼ける——頭やけるうううう
反則だろこんなのおお——

マズいマズいマズいマズい
これ——こんな続いたら
億え……ちまうよお！
俺のカラダ——おっさんに
仕込まれちまううう！

あああああ
あああああ
あああああ

開発はヤバかった

正直イキ死ぬかと思った
もう、女みたいな声を
我慢しようという気が
おきないくらいイカされた

このおっさん——やつぱりヤバイ
ヤバイくらい——うまい

その日だけで、もう何回イッたか
数えられないくらいイカされた
朦朧とする俺に、おっさんは
これからケツ穴のことを
ケツマンコと呼ぶように強く言った
——やつぱりこのおっさんダメだ……

でも——やばい、ケツマンコすげえ
「すっかり雌アクメが気に入ったようだね」
俺は男なのに——こんな変態のおっさんに
ケツマンコでいいように飼われちまってる
何とかしないと……本当にマズい
これ以上仕込まれたら——俺

屋敷に来て十四日目—
あれから毎日ケツ穴調教されて
俺のケツマンコはすっかりだらしなくなった

おっさんが近くにいるだけで
寝室でのごんごんを思い出して疼き出すので
かなり取り返しのつかないことにな
っている気がする—

今さら興奮すんなよ—
そう思った俺が馬鹿だった

寝室に入ったら
すぐさま押し倒された
今日はいよいよ—
ケツマンコでセックスするらしい
今まで我慢していたらしく
おっさんの興奮っぷりが半端じゃない

ダメだ—これだけは……
本当にダメだ—

ヒキヒキにならてる
おっさんのモノを見て
本能的に分かった

俺のケツマンコが—おっさんのモノにされちまう

あああ—ケツ穴にチンポきたう！
逃げなきゃいけないのにっ
ケツ穴の入口こねられただけで
力抜けて—あああ
俺の弱い動きチンポですんなあ—

「今日で君も立派なケツマンコ愛人だよ」
やめろお……そんなこと言うなあ……
入口だけで俺のケツマンコ
もう媚始めちまつてるのに……

チクショウ……こんな
なんて抵抗できねえんだよ—
やめろ—入れんなあ……
やめろ—やめええええ—

!?

あ……あ……あ……あ

あああああ
こつれえ——これえええ

なんでだよおおお!? こん……なう
こんなおつさんのお変態おつさんの
チンポなのにい——っ!

よすぎ——気持ちよすぎんだよお!

ケツマンコ完全にこびてるう——
おつさんのチンポになびきまくって
あつあつあつ—— ああああ!?!
もう——イ——イクっ!
いつちまうよおこんな早くう!

なるっ——なるからあ——
ケツマンコ愛人でも奴隷でも
なんでもなるからあ——
なるからとめろよお——
動くのもうひやめろお……っ

あさ——浅いのもやめろお!
浅いところ素早く何度も擦るとお
もどかしくて頭変になるう——

お——奥う奥つくなあ!
そこ知ってるくせにい
俺のケツマンコ屈服させる
場所だつて知ってるくせにい——!

イクイクイクイクイクイク
イクイクイクイクイクイク

ケツマンコ奴隷兼愛人にされてから
俺は言われなくても 毎日
おっさんの寝室に通わされている
愛人奴隷とはそういうものらしい

俺はかなり嫌がったがダメだった
完全に出来上がったケツマンコに
チンポを突っ込まれながら
そう言うように誓わされた

昨日からおっさんのことを
寝室では必ず御主人様と
言うようになった

チンポのカリ首でケツマンコの
入り口あたりを浅突きしながら
ケツアクメを焦らされるのがヤバイ
アレをされると逆らえなくなる

おっさんは意地悪だから
はじめは生意気な俺が
徐々に屈服していく様子を
楽しみながら犯してくる

ムカつくことを誓わされまいと
チンポでの説得に耐えようとする
俺に興奮するらしい
変態な上に陰険で最悪だ

ゆつくりとチンポを抜き挿しされ
一番奥で ーわさと止める
今日はまた一つ俺の弱点が増えた

今日は朝から御主人様とケツハメすることになった

朝風呂帰りに廊下で偶然出くわして俺を見てムラムラムした御主人様にそのまま寝室へ連れ込まれたからだ

朝だから客が何人も扉の前までやってくるけど御主人様はお構いなしで俺を犯してくる

声を我慢しないように言われたから当然俺の喘ぎ声は向こうに丸聞こえだ恥ずかしすぎてイキそうになる畜生……だから朝からは嫌なんだ

最近ではケツハメしている時は女の言葉を使うようにされた

それには俺もかなり抵抗したが三日も入念にケツマンコを焦らし説得されて陥落した

御主人様のケツマンコセックスはマジでねちねちで激しい俺だけが何度もイカされて失神アクメなんてしよちゆうだ

マジでこのチンポに逆らえないそう気づいたときには手遅れでいつの間にか俺のカラダはそういう風に馴けられていた

ああっ——くる！ 射精くる！
朝からずつとお預けされてた
ケツマンコ射精くる——っ！

ひいん！ 準備してる——
俺のこと舐けるこ褒美射精の準備い
もう俺わかるようになってしまったあ
俺のケツ穴を雌マンコにした
屈服射精来るのわかるう——

やせいきたあ

おっ♡あ♡あ♡わわ♡
おっ♡あ♡あ♡わわ♡

うあつああああつ——
きた——きたあ——

あああああ——すげえ……っ！
御主人様のケツマンコ中出しい
よすぎる——よすぎて狂ううっ！
俺のカラダどんどん雌にされちまつてるう

「女の顔をするようになった」
御主人様がいやらしい顔で
俺にそんなことを囁く——
「そろそろ本当に女になるか？」

親父い……頼むから
来るなら早く来てくれ……
俺たぶん——もう
自力じゃ——無理かも……



再販/2024/12/30